

2025年度 第3回番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 2026年2月26日(木) 12:30~14:30
2. 開催場所 : DAYS 赤坂見附 貸し会議室(東京都港区赤坂 3-9-1)
3. 委員の出席 : 委員総数 7名 / 出席委員数 6名
出席委員氏名 : 瀬戸純一委員長、関沢英彦委員、天城鞆彦委員、今村庸一委員、服部洋之委員、森川雅博委員
書面参加委員氏名 : 酒井順子委員

放送事業者側出席者氏名 :

<株式会社東北新社メディアサービス>

三河幸太郎

<株式会社スーパーネットワーク>(Super! drama TV HD)

高橋宏昭代表取締役社長、田中充常務取締役、額田大介 編成チームマネージャー、小池田慎二 編成チームサブリーダー、(事務局)城謙一、緑川玲香

4. 審議対象チャンネル : Super! drama TV HD

5. 議題 : 番組審議

<審議対象番組>

- ・「S.W.A.T. ファイナル・シーズン」
- ・「ヒル・ストリート・ブルース シーズン1 完全版」

6. 審議内容

<「S.W.A.T. ファイナル・シーズン」について>

- ・非常に快適なテンポで展開していくわかりやすいストーリーで、伝統あるシリーズのファイナルに相応しい作品であるという印象。
- ・非常に巧みな演出と構成ができているが、犯人像とその動機の設定が少し甘いという感じがしたのが残念。だが、大きなテーマが背景にある気がしてドラマとしては非常に魅力的。
- ・人種や性別への多様性への配慮もなされ、現代的な作品となっている。新人のギャングがどのような存在になっていくのか楽しみな一作。
- ・ご都合主義なところが多々みられるが、ぐっと詰め込んだストーリー展開の脚本で、まったく飽きさせない。上手くできている作品。
- ・警察ドラマの中で、人間の心情についてもきちんと落としどころをつけているという印象もあり、非常に完成度が高い。アメリカ社会の課題の縮図が否応なしに詰め込まれたような作品。
- ・人間関係はクールななかでも引継ぎとか教えるとか、そういうことがファイナル・シーズンですごく出ていた。最後に、「人の価値は助けた人の数で決まる」みたいなメッセージもあり良かった。
- ・悪者がパターン化されているところもあるが、悪者が退治されて終わるとするのは非常にスカッとする。観ていて気持ちがいい作品。

<総括>

国際的なひろがりもあり、メンバーの描写もいろんな要素を無理なく上手に組み込んでいて面白く観られる作品。

<「ヒル・ストリート・ブルース シーズン1 完全版」について>

- ・アンサンブルドラマの原点になったと言われている作品。面白く観た。80年代の色彩というか、そういうのを懐かしいと感じた。
- ・勧善懲悪ではないドラマの典型。カメラが手持ちでドキュメンタリー的手法に近い。当時画期的な方法の一つだったのでは。1980年代に作ったとは思えないぐらい斬新なテクニックがちりばまっていた。
- ・時代が変わったというのをすごく感じる。いろいろなものが変わってしまったせいか感情移入はあまりできなかった。
- ・一日の出来事が非常に人間くさく描かれ、刑事たちの熱気というものが描かれているのが魅力的。復元部分を字幕で処理したところが今一つ理解できなかった。
- ・言葉というのが80年代は今よりもっと大きな意味を持っていたと感じた。現在のアメリカ政権と重なる部分が多々あり、45年経った現在でも同じようなテーマがあると思った。
- ・なぜ今これを放送するのだろうかという疑問を覚えた。ポリティカル・コレクトネス的な配慮が行き届きすぎて息苦しくなることもある現代だが、このようなドラマを観ると、「古き良き時代」とは言いがたく思えた。
- ・いろんな筋が入り組んでいて非常にわかりづらい。アンサンブルドラマなので、これから面白くなっていくのだろうなと思った。

<総括>

当時と現在を比較されるような部分が際立って感じられた。時代が変わり、コミュニケーションの仕方が随分変わったというのがわかる部分がたくさんあったという意味では良い作品なのでは。ただ、なぜ今これを放送するのだろうかという疑問も感じる。非常に古典的な歴史的な作品。

<事業者回答>

今後の番組編成の参考にさせていただく。

以上

2025年度 第4回番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 2026年 3月 27日(金)
2. 開催場所 : 株式会社東北新社 会議室(東京都港区赤坂 4-8-10)
3. 委員の出席 : 委員総数 7名 / 出席委員数 6名
出席委員氏名 : 芥川麻実子委員長、中嶋貞治委員、中町綾子委員、岩本昭治委員、
岩佐陽一委員、村本理恵子委員
書面参加委員氏名 : 武内智雄委員

放送事業者側出席者氏名 :
〈株式会社東北新社メディアサービス〉
三河幸太郎取締役 ※書面参加

放送事業者側出席者氏名 :
〈株式会社ファミリー劇場〉(ファミリー劇場 HD)
筋野茂樹代表取締役社長、渡邊潔巳取締役

4. 審議対象チャンネル: ファミリー劇場 HD
5. 議題 : 番組審議
〈審議対象番組〉
・「今野敏サスペンス 遠火 警視庁強行犯係 樋口顕」

6. 審議内容
〈番組について〉
 - ・キャストや内容を含め上の世代が安心して見ていただける良い作品であった。
 - ・最近視聴ターゲットが若い世代を意識した、キャラクター性であったり、軽めでテンポの早い作品が多いが、本作は骨太の刑事ドラマで、ファミリー劇場の視聴者層にも望まれている良い作品だと思う。
 - ・メインキャストの年齢も視聴者層に合致しており、ファミリー劇場に求められているドラマだと感じた。
 - ・新しいドラマであるが、背景や捜査手法など、物語の進め方を少し上の世代に分かりやすく作られている点が秀逸であった。

〈番組編成に関する意見交換〉

- ・若い世代を取り込むよりも、上の世代の要望にしっかりと応えられるような番組編成に特化する事が結果的にチャンネルの強化につながるのではないかと。
- ・シリーズコンプリートや一挙放送は配信サービスには無い、所有する喜びを満たしてくれている。そういった点をもっとアピールしても良いと思う。

- ・近年は懐かしい番組の座談会や同窓会イベントが増えてきているので、放送に加えてイベント展開を行ってはどうか。
- ・作品の背景や見どころなどを解説する映像を番組と放送するなど、単にコンテンツを消費する事から記憶の追体験に変える事で付加価値が高まると思われる。
- ・番組ラインアップの紹介だけではなく、編成全体の意図を伝える事も、共感できる視聴者を増やす事になるのではないか。

<事業者回答>

- ・今後の番組編成の参考にさせていただく。

以上